

(説明資料)

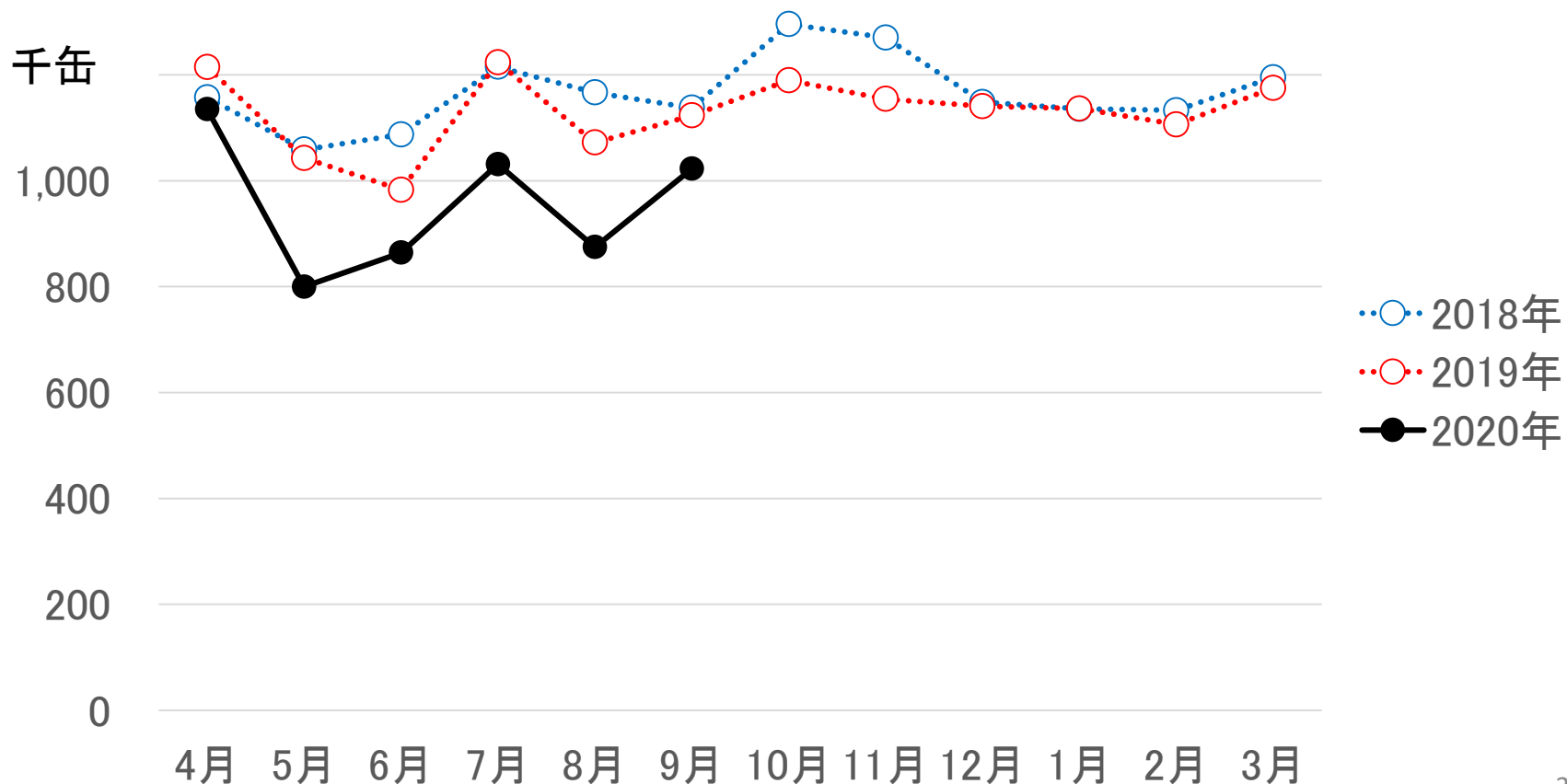
2020年度第2四半期決算

20年10月28日

JFEコンテナ株式会社

ドラム事業販売環境(国内 全国200リットルドラム缶数量)

当第2四半期連結累計期間(2020年4-9月)におけるわが国経済は、世界的なコロナ禍拡大の影響を受けて大幅に悪化し、当社の主要な需要家である化学・石油業界も急激な減産に見舞われて、国内における当社の事業分野である産業用容器業界の全国200リットル新缶ドラム缶の販売実績は前年同期比で14.0%減の5,727千缶まで落ち込みました



ドラム事業販売環境(中国)

ドラム事業販売数量・売上高

また当社が国内とならんで事業展開している中国においてもコロナ禍の影響は深刻で、特に当第2四半期連結累計期間に組み込まれている中国の1-6月においては当社中国四工場も1月末の春節から半月近く操業停止を余儀なくされる等、事業環境は非常に厳しいものでした

この事業環境の悪化を受けて国内、中国とも販売数量は大幅に落ち込み、両者を合わせた販売数量は2012年4-9月以来の低水準となる**前年同期比▲16.6%減の4,038千缶**となり、売上高はこの販売数量減を主因に元安(15.68→15.23円/元)による為替差もあり、**前年同期比▲2,257百万円、▲15.4%減収の12,366百万円**となりました

単位:千缶/百万円

	2019年4-9月	2020年4-9月	差	増減率
全国販売数量	6,659	5,727	▲932	-14.0%
当社販売数量(国内+中国)	4,841	4,038	▲803	-16.6%
当社売上高(国内+中国)	14,623	12,366	▲2,257	-15.4%

ドラム事業及び高圧ガス事業経常利益

ドラム事業

このようにリーマンショック以来ともいわれるコロナ禍の影響により、国内、中国ともに未曾有の事業環境悪化に直面する中で、当社としては従来から進めている品種構成改善や変動費削減、経費圧縮その他のコストダウン等のあらゆる企業努力を尽くして収益改善をはかりましたが、2020年4-9月のドラム事業経常利益は前年同期比▲326百万円、▲25.3%の減益の961百万円となりました

高圧ガス容器事業

当社が取り組んでいる事業分野の内、在宅医療用酸素容器の分野ではコロナ禍の影響による外出自粛で需要が停滞する等の悪影響を受けており、高圧ガス容器事業全体としての売上高は前年同期比▲52百万円、▲43.2%減収の68百万円となりましたが、経常利益はほぼ前年同期並み▲74百万円となりました

	2019年4-9月	2020年4-9月	差	増減率
経常利益	1,210	882	▲327	-27.1%
ドラム事業	1,287	961	▲326	-25.3%
高圧ガス容器事業	▲78	▲74	4	
その他	1	▲4	▲5	

単位：百万円

連結売上高・経常利益・当期純利益

以上の各セグメントを合わせた当期の当社の連結業績は
 売上高が前年同期比▲2,309百万円、▲15.7%減収の12,434百万円、
 経常利益は前年同期比▲327百万円、▲27.1%減益の882百万円となりました。

尚、物流合理化により不要となった資産の売却や従業員退職年金制度変更による特別利益を計上しており、当期純利益は前年同期比▲57百万円、▲7.0%の減益の754百万円となりました。

単位：百万円

	2019年4-9月	2020年4-9月	差	増減率
売上高	14,743	12,434	▲2,309	-15.7%
営業利益	1,151	772	▲379	-32.9%
経常利益	1,210	882	▲327	-27.1%
特別損益	-38	211	250	
法人税等	-360	-340	20	
親会社株主に帰属する当期純利益	811	754	▲57	-7.0%
売上高経常利益率	8.2%	7.1%	-1.1%	-13.6%

業績予想(9月29日公表)との比較

単位:百万円

	2019年実績	通期業績予想 ①	2Q実績 ②	進捗率 ②÷①
売上高	29,759	26,000	12,434	47.8%
営業利益	2,419	1,700	772	45.4%
経常利益	2,507	1,800	882	49.0%
当期純利益	1,674	1,400	754	53.9%
売上高経常利益率	8.4%	6.9%	7.1%	

	中期計画
売上高	32,000
経常利益	3,000